

立命館大学産業社会学部創設 50 周年記念学術企画

産業社会学部・人文科学研究所「批判的实在論研究プロジェクト」 共催

「批判的实在論と社会科学におけるその可能性 ー社会科学の基礎理論におけるオルタナティブー」

バース・ダナーマーク (Berth Danermark) 氏

(社会学；スウェーデン、オレブロ大学、健康・医療科学部教授)

ジャン・C h. カールソン (Jan Ch. Karlsson) 氏

(社会学；スウェーデン、カールシュタット大学、労働生活科学部教授)

招聘 二日連続講演 (二日とも通訳あり)

11 月 6 日 (木) 15 : 00～18 : 00 末川会館第 3 会議室

B. ダナーマーク 「批判的实在論への導入」

J. C h. カールソン 「社会構造と人間エージェンシー」

11 月 7 日 (金) 15 : 00～18 : 00 末川会館第 3 会議室

J. C h. カールソン 「批判的实在論；その研究手法と研究デザイン」

B. ダナーマーク 「批判的实在論応用のためのガイドライン」

司会 (両日とも)：佐藤春吉 (立命館大学産業社会学部教授)

※会場；立命館大学衣笠キャンパス 末川会館へのアクセスは、以下参照

http://www.ritsumei.jp/accessmap/index_j.html

イギリスの哲学者R. バスカーが提唱した批判的实在論は、批判的な社会科学の基礎理論について新たなオルタナティヴを提案しています。批判的实在論の研究グループのメンバーであるスウェーデンの社会学者、ダナーマーク氏とカールソン氏は、批判的实在論の基本とそれに基づく研究方法論についての優れた入門書『社会を説明する』（ナカニシヤ出版より、訳書、近刊予定）を著しています。

批判的实在論は、まだ日本では十分知られていませんが、イギリスを中心にヨーロッパ諸国や英語圏で、普及しつつあり、学際的な研究に刺激と指針を与えています。このたび、産業社会学部の創設 50 周年記念企画として、ダナーマーク、カールソン両氏をお呼びして、同書訳書刊行をまえに、批判的实在論について講演をいただき、討論の機会を設けます。批判的实在論は、社会諸科学を統合する学際研究の基礎を与える有力な理論的対案と方法論についての考え方を提案しています。ふるってご参加ください。

本企画の位置づけとその意義

批判的实在論とは

批判的实在論は、イギリスの哲学者ロイ・バスカー（Roy Bhaskar）が提唱し、独特の社会存在論にもとづく社会科学論、方法論を展開し、多分野にわたる学際的な研究をリードしている社会科学の基礎理論です。日本では、まだほとんど知られていませんが、多彩な分野の有力な研究者が集まって国際的な共同研究を展開しています。その中心は、批判的实在論のための国際学会(International Association for Critical Realism: IACR)です。

批判的实在論の特徴は、科学の成立根拠を客観的实在について「超越論的推論」によって論証し、世界の实在性をオープン・システムの相でとらえ、創発性と階層性という観点から多元的な複合的因果連関を考察する方法論を展開しています。この考えは、必然性と偶然性の絡まりあう実在的因果連関を捉えるだけでなく、認識対象の实在性と同時に認識主観の实在性を同時に承認することによって、主観の因果的力を積極的に認め、概念が人間によって実践的に構成されることを主張しています。これによって、対象の「存在論的实在論」と概念の「認識論的相対主義」とを同時に承認し、知識の社会的歴史的相対性を主張しながら、同時に実践的目的に適合する相対的な意味で「客観的な」知識の成立を承認します。科学的推論についても、「演繹」、「帰納」以外に「アブダクション」、「リトロダクション」という独自の推論の様式の重要性を主張しています。また、このような考えをもとに、社会的实在の独自性格を論じ、特有の社会存在論を展開しています。批判的实在論は、ヒューム主義的経験主義を徹底的に批判し、科学を予測可能性で評価する考え方に代えて、説明力こそ評価の基準であると主張し、「説明科学」を提唱しています。

批判的实在論は、ヨーロッパ諸国特に英語圏を中心に、国際的なレベルで批判的な社会科学に新たな基礎を示し、さまざまな社会諸科学の共同に指針を与え、応用的で実践的な諸科学を刺激することができる可能性を持っており、今日まさに求められている理論であるとも言えます。こうした、社会と人間に関する諸科学を総合する批判的实在論の性格を反映して、この研究グループには、哲学、社会学、経済学、法学、政治学、倫理学、心理学、教育学、福祉、ジェンダー、社会言語学（特に批判的言説分析CDA）、メディア、医療、環境、国際関係論など、非常に多彩な分野の研究者が集まっています。

それは、方向喪失感たどる現代の社会科学の学問状況においてきわめて貴重なものであり、大いに参考となる理論動向です。

共著書『社会を説明するー批判的实在論による社会科学論』（ナカニシヤ出版より訳書刊行予定）の著者二人を招聘した講演と討論

今回の国際学術企画は、立命館大学産業社会学部の教員・院生を中心に構成されている「批判的实在論研究会」が中心となって進めている、スウェーデンの社会学研究者たちによって書かれた、批判的实在論による社会科学論の入門書、*Explaining Society*※の翻訳事業に連動して、著者たち2名（著者グループ代表：Berth Danermark, Orebro 大学教授、Jan Ch. Karlsson, Karlstad 大学教授）を招いて開催されます。また、産業社会学部創設50周年を記念する企画ともなっています。

講演では、同書の内容に関わらせて批判的实在論の基本的な考え方、その魅力、学際研究の可能性について、講演していただき、また、批判的实在論についての認識を共有し、共同討議の機会を設けます。同書は、社会科学論および社会科学研究法の入門書であり、耳慣れない用語や思考法が含まれているとはいえ、その内容は決して難解ではなく、批判的实在論の存在論と認識論をふまえた具体的な社会科学研究における方法論（「方法論的多元主義」）が非常に分かりやすく質を落とすことなく解説されており、社会科学における批判的实在論の優位性について説得力をもって書かれた優れた入門書となっています。本書は、ポスト・モダンの流行以降、観念論の主観主義や相対主義に陥ってしまった社会科学に対して、客観的な知識を擁護しつつも独断論を免れた新しい合理的で批判的な社会科学の道を示してくれています。本書の刊行は、理論的な基礎を見失いつつある日本の社会科学研究に新たな観点をもたらし、大きな刺激を与えるものになると確信しています。

※Berth Danermark, Mats Ekström, Liselotte Jakobsen, and Jan Ch. Karlsson, *Explaining Society: Critical realism in the social Sciences*, Routledge, 2010.

研究者・院生・学生の幅広い参加を呼びかけます。

本企画は、批判的实在論の提唱する社会科学の基礎理論のオルタナティブに関心をもつ研究者にとって有意義な企画です。しかし、講演は、特別に難解なものではなく、学部学生、院生にも、自らの学びや研究に反省的な視点と理論的問い直しへの刺激を与える内容

を持っています。学生・院生にも広く参加を呼びかけたいと思います。また、本学内にも批判的実在論に関心を持つ研究者が徐々に増えつつあり、全国的にも各地に関心を持つ研究者が存在していると思います。ぜひ本企画にご参加ください。

参考；招聘講師について

バース・ダナーマーク（Berth Danermark）氏は、スウェーデンのオレブロ大学、健康医療科学部の社会学教授。障害研究・障害福祉研究の分野ではスウェーデンの第一人者の一人。スウェーデン障害研究所のリーダーである。社会学論や社会科学論にも造詣が深く、スカンジナビア諸国への批判的実在論普及の第一人者。著書・論文多数。

ジャン C h. カールソン（Jan Ch. Karlsson）氏は、スウェーデンのカールシュタット大学労働生活科学部の社会学教授。労働、労働組織、日常生活における階級とジェンダーなどについて研究。社会学理論や社会科学論にも関心を持ち、批判的実在論を応用した研究を精力的に進めている。著書・論文多数。

※お問い合わせは、 hst01932@ss.ritsumei.ac.jp 佐藤春吉 までお寄せください。